

支 出 書

会 派 名	新政クラブ	整理 No.1-1
科 目 (該当○印)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 調査研究費    2 研 修 費    3 資料作成費 4 資料購入費    5 広 報 費    6 広 聴 費 7 要請・陳情活動費    8 会 議 費    9 人 件 費 10 事 務 所 費	
金 額	240,740 円	
支出年月日	2018 年 9 月 10 日	
支出内容	10月2日～10月4日 岩手県 紫波町・宮城県 岩沼市、女川町 視察 への参加費及び出張旅費	
支 出 先	別添、領収書のとおり	

領 収 書 (該当○印)	<input checked="" type="checkbox"/> (別紙の領収書添付用紙へ添付)
	無 領収書を添付することができないため、上記の内容の支出をしたことを証明する。 会派の代表者名 <span style="float: right;">印</span>

別紙

領収書添付用紙

支出書整理 No.1-1

(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

# 領 収 書

2018年9月10日

(会派名) 新政クラブ

(代表者) 大塚 忠司

¥117,130

但 10月2日～4日、岩手県  
紫波町・宮城県 岩沼市、女川町  
視察への出張旅費

上記正に領収いたしました

(会派名) 新政クラブ

(名 前) 八杉 光乗

	金 額	摘 要
交通費	79,780 円	紫波町、岩沼市、 女川町
日当	7,750 円	2.5 日
宿泊料	29,600 円	2 泊
(合計)	117,130 円	

# 領 収 書

2018年9月10日

(会派名) 新政クラブ

(代表者) 大塚 忠司

¥117,130

但 10月2日～4日、岩手県  
紫波町・宮城県 岩沼市、女川町  
視察への出張旅費

上記正に領収いたしました

(会派名) 新政クラブ

(名 前) 宮地 毅


	金 額	摘 要
交通費	79,780 円	紫波町、岩沼市、 女川町
日当	7,750 円	2.5 日
宿泊料	29,600 円	2 泊
(合計)	117,130 円	

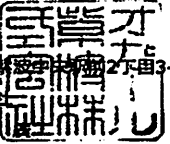
領収書添付用紙

支出書整理 No.1-1



(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

領収書	No. 1830148
	平成30年10月3日
八杉 光乗 様	
金額	¥ 3,240
但 オガールプロジェクト視察研修費として	
上記金額正に領収いたしました。	
内訳	収 入
税抜金額 ¥ 3,000	〒028-3318
消費税額 ¥ 240	岩手県紫波郡紫波町紫波字北町2丁目3-3
	オガール紫波株式会社
	代表取締役 佐々木
	

領収書	No. 1830146
	平成30年10月3日
宮地 毅 様	
金額	¥ 3,240
但 オガールプロジェクト視察研修費として	
上記金額正に領収いたしました。	
内訳	収 入
税抜金額 ¥ 3,000	〒028-3318
消費税額 ¥ 240	岩手県紫波郡紫波町紫波字北町2丁目3-3
	オガール紫波株式会社
	代表取締役 佐々木
	

研究研修・調査報告書

会 派 名	新政クラブ	報 告 日	2018年10月16日
代 表 者	大塚 忠司 	報 告 者	宮地 毅 
参 加 者			
	八杉光乗 宮地毅 計2名		
実 施 日	2018年 10月 2日 ～ 10月 4日		
研究研修・調査等の場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手県 紫波町</li> <li>・宮城県 岩沼市 と 女川町</li> </ul>		
目 的	・オガールプロジェクトについて（紫波町）		
	・環境未来都市について（岩沼市）		
	・ボランティアセンターの運営について（岩沼市）		
	・復興まちづくりについて（女川町）		
<p>研究研修・調査等の概要</p> <p>□10月2日 移動日</p> <p>□「オガールプロジェクトについて」 10月3日 9:30~11:45</p> <p>コンパクトシティとは、市街地のスケールを小さく保ち、歩いてゆける範囲を生活圏と捉えコミュニティの再生や住みやすい町づくりを目指すものです。その数少ない成功事例として岩手県紫波町の「オガール※プロジェクト」を視察しました。</p> <p>岩手県紫波町は約3万3千人の人口で、盛岡市と花巻市のほぼ中央に位置するベッドタウンです。この小さな町に年間80万人もの人が集まり賑わっているのは「オガールプロジェクト」の成功によるものです。「オガールプロジェクト」は、国や地方自治体が行う事業や公共サービスに、民間のお金や知恵、ノウハウを取り入れ実施する手法（PPP手法）を用いて行われ、町民をはじめ多くの人たちの知恵が結集されています。このエリアには、町役場・ホテル・図書館・体育館・フットボール場・子育て支援センター・病院・学習塾・保育所・病児保育施設・産直市場・居酒屋・カフェ・衣料品売り場・住宅区などあり、また近隣には、紫波中央駅や小・中学校と揃っているのので、徒歩で生活圏内を移動することが可能となっています。</p> <p>効果として、産直市場等の利用者36万人、図書館の利用者19万人、情報交流館の利用者32</p>			

万人など、町民だけではなく近隣の市町から週末に人が訪れ賑わっています。このことにより、エリア価値向上・周辺地域への民間投資誘発など、不動産価値も向上しています。さらに新しく住宅地も分譲され、若年人口が増加し新たな賑わいの創出にも繋がっています。

□「環境未来都市について」・「ボランティアセンターの運営について」

10月3日 15:30~17:00

環境未来都市とは、21世紀の人類共通の課題である、環境や高齢化などに対応し、環境、社会、経済の3つの価値を創造することで、「誰もが暮らしたいまち」「誰もが活力のあるまち」の実現を目指す、先導的プロジェクトに取り組んでいる都市・地域であり、平成23年度に岩沼市が選定された。

- ・エココンパクトシティの形成  
東日本大震災の影響により、点在していた集落を、集団移転させ集落をコンパクト化し、コミュニティを再構築させた。また、このエリアのエネルギーは自然エネルギーを利用することでエコを実現させている。
- ・千年希望の丘の造成  
津波の威力を減じる手法などとして丘を15基造成し、震災がれきの再生活用を図っている
- ・自然エネルギーによるエネルギーマネジメントシステムの構築  
震災以降に地盤沈下で排水機能が低下した土地を利用し、いわぬま臨空メガソーラによる太陽光発電を構築。事業者による個人所有地の長期借り上げを通じて、被災者支援の側面も担っている。

□「復興まちづくりについて」 10月4日 10:00~12:00

- ・東日本大震災における被害状況  
震災時人口 10,014 人、行方不明 827 人→犠牲率 8.3%  
震災時建造物数 6,511 棟、全壊・流出 4,316 棟、その他被害 1,241 棟→被災率 85.4%  
東日本大震災における、被災率最大の自治体が女川町である。また、震災以降の人口減少率が 1,741 市区町村中、最も高い。
- ・復興まちづくりにおける基本的な考え方  
将来も含めての人口減少を見据えた都市構造。漁港施設・市街地・居住地とひな壇構造のように徐々に高く盛土を行い、減災と海の町の意識を両立
- ・商工業の復興状況  
東日本大震災後、町内商工業の 1/3 が廃業。復興により駅前の商業エリアでは現在 60 店舗が開業し、商業エリアも増えて行っている。  
観光客数も年々増加傾向にあるが、震災前の 6 割程度である。(駅前の町並みは国土交通大臣賞を受賞するなどアピール)

□ 「所感」

- ・「オガールプロジェクト」は、町民の意見を取り入れたまちづくりをおこなっており、誰もが使いやすい整理された町並みで、徒歩圏内に都市機能として必要な物がすべて整い、ここで暮らす人は過ごしやすく、誰もが住みたいであろうと感じました。福山市もコンパクトシティ構想はあ

りますが、そこで暮らす方たちの意見を取り入れ、そこで暮らす方たちが暮らしやすくなることが重要だと感じました。理想のまちを視察でき大変参考になりました。※「オガール」とは、フランス語で駅を意味する「Gare（ガール）」と、紫波町の方言で「成長」を意味する「おがる」から成る造語で、持続発展の願いが込められている。

・女川町の「復興まちづくりについて」については、“行政に頼るな”“還暦以上は口を出さない。未来がある若手がまちを作れ”と民間の人たちが活発に復興の議論を行い、まちづくりや産業振興の具体的な取り組みを行ったとのことだった。本市の若者にもやる気や熱意を持った人は沢山いると感じている。そういった若者にイベントなどを任せてみるのも良いと感じた。

・この2日間、紫波町・岩沼市・女川町と3か所のコンパクトシティを見てきた。震災の影響で強制的・しかたない部分もあるが、整備された街並み、機能性は素晴らしいものがあった。福山市のコンパクトシティ計画はあるが参考になった。